

① **国語A** 本年度の課題について

言語についての知識・理解・技能について課題がある

既習の漢字を正しく書く力

予防 **祝う**

<p>正答率 全国77.4% 本市71.7% -5.7p</p>	<p>正答率 全国59.3% 本市52.2% -7.1p</p>
--	--

国語B 複数の条件に応じて書くことに課題がある

① 2つの付箋の内容を使う
② 二文を一文にまとめる
③ 「例えば」という言葉を使って具体的な事例を示す
④ 書き出しの言葉に続けて書く
⑤ 100字～120字で書く

正答率
全国26.9%
本市20.9%
-6.0p

今後の取組について

国語A
言語についての知識・理解・技能の習熟・徹底

- 漢字等の繰り返し学習
- 小教材（ことば）の学習

続けること

国語B
自分の考えを書く活動を取り入れた学習展開

- 書く場を設ける
- メモ・視写・聴写
- 多様な「書く」活動

書き慣れること

正答率が低かった問題 小学校 算数科

算数科A 1(3) $9-0.8$ (小数の計算)

小数点をそろえて位ごとに計算することの理解ができていない。

1(3) $9-0.8$

【誤答】12.6%

末尾をそろえて解答

$$\begin{array}{r} 9 \\ - 0.8 \\ \hline 0.1 \end{array}$$

位を正しくそろえて計算

$$\begin{array}{r} 9 \\ - 0.8 \\ \hline 8.2 \end{array}$$

正答率
全国:83.8%
本市:79.4%
差:-4.4P

・計算は、繰り返し徹底して練習させる。(維持・継続する)


・位を揃えて計算する意味を理解させるために、左のような誤答を提示し、どこがどう違うのか、児童に説明させる。

算数科B 示された情報を整理し、筋道を立てて考え、記述することに課題

使いやすいはしの長さのめやすは、「一あた半」と言われています。

一あとは、親指と人差し指を直角に広げたときのそれぞれの指先を結んだ長さです。

一あた半は、一あたを1.5倍した長さです。



正答率
全国:33.0%
本市:31.0%
差:-2.0P

無回答率
13.6%

(3) まことさんの発表を聞いて、なつきさんは妹のはしを買いに行こうと思いましたが、
なつきさんは一あたの長さについてさらに調べ、下のことがわかりました。

一あたは、身長約10%の長さです。

妹の身長は140cmです。

妹の身長と、左の使いやすいはしの長さのめやすをもとに、一あた半の長さを求めると、はしの長さは約何cmになりますか。求め方を言葉や式を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

【課題の考察（正答率が低い・無回答率が高い）】


【算数A】

- 四則の計算(小数の計算・計算の順序)
- 数直線を読み取る力
- 情報を整理し、正しく関係を表している図を読み取る力

【算数B】

- 示された情報を基に理由を記述する力
- 規則性を見出し、算数の用語を使って記述する力
- 示された情報を整理し、答えの求め方を言葉や式を用いて記述する力

**徹底した練習・図の指導
かく活動の充実**



1 課題のある調査問題(国語B)

正答率
39.9%
-6.6 P

3 三問い:

落語の演じ方を選択し、なぜそのように演じるのかを、本文を根拠に殿さまの気持ちを想像して書く

無解答率
10.7%

書くこと

記述式

根拠を明確にして、それを活用して
自分の考えを書くことに課題

1 課題のある調査問題(国語A)

正答率
67.7%
-9.3 P

8 二問い: 正しい読みを書きなさい。

「アユの稚魚を放流する。」

8 二問い: どれが最も適切ですか。

正答率
53.0%
-9.7 P

25

友達に将来の□□を話す。

7 二問い: 下線部の漢字の正しい読みを

正答率
54.6%
-9.9 P

24

「考えに相違がある。」

2 今後の取組

基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着

「書くこと」の領域の知識・技能の確実な定着

- 漢字や語句の意味の理解・習得の徹底
- 言葉を根拠として自分の考えをもたせ、
書いて表現させ、交流させる授業(言語活動)
- PDCAにもとづいた授業改善
(「めあて」と「まとめ・ふりかえり」)

正答率が低かった問題 中学校 数学科

1 課題のある調査問題(数学A)

①

(3) -7 の絶対値を書きなさい。

正答率

79.4%

-1.6p

②

「絶対値」の意味の理解

(3) $a = 2$ 、 $b = 3$ のとき、式 ab^2 の値を求めなさい。

正答率

74.4%

-8.2p

③

「代入」や「式の値」
の意味の理解(2) 一次方程式 $\frac{x-1}{3} = 2$ を解きなさい。

正答率

52.3%

-7.2p

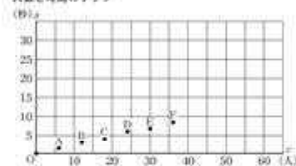
基本的な
計算方法の理解

1 課題のある調査問題(数学B)

ウェブをする人数とかかる時間

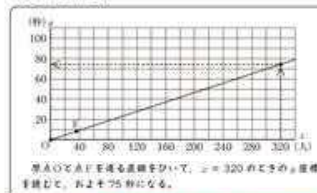
人数 x (人)	0	6	12	18	24	30	36
時間 y (分)	0	1.4	2.9	4.3	6.0	6.8	8.4

人数と時間のグラフ



(2) 大地さんは、次のようにして、全校生徒320人がウェブをするのにかかる時間を求めました。

大地さんの求め方

原点Oと点Aを通る直線をひいて、 $x = 320$ のときの y の値を読みとって、およそ75分になる。

【正答例】「ウェブするのにかかる時間は、ウェブをする人数に比例している」

正答率

52.3%

-10.0p

根拠をもとにするなど、
書くこと・記述することに課題

無解答率

39.2%

2 今後の取組

基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着

- 用語の意味の理解の徹底
- 基礎的・基本的な技能(計算方法等)の定着

書くことの確実な定着

- 授業でまとめを書くことの徹底
(学習した用語を使って・解決過程のまとめなど)
- 学力調査問題の授業での活用
(1・2年生の授業での活用)

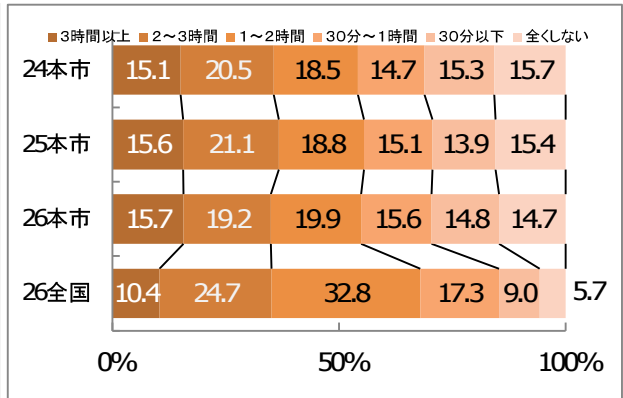
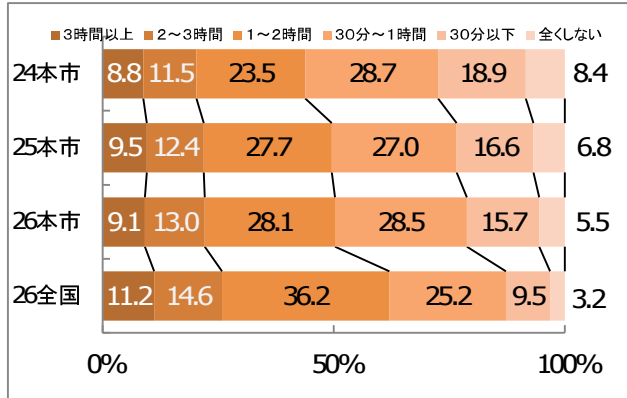
家庭学習について

児童生徒質問紙調査結果より

14 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

【小学校】 1時間以上 本市 50.2% 全国 62.0%
全くない 本市 5.5% 全国 3.2%

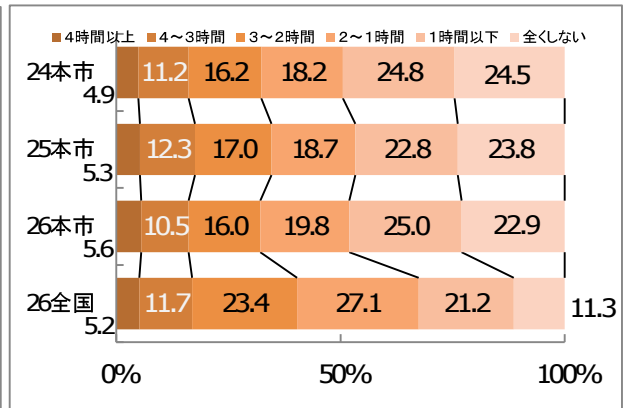
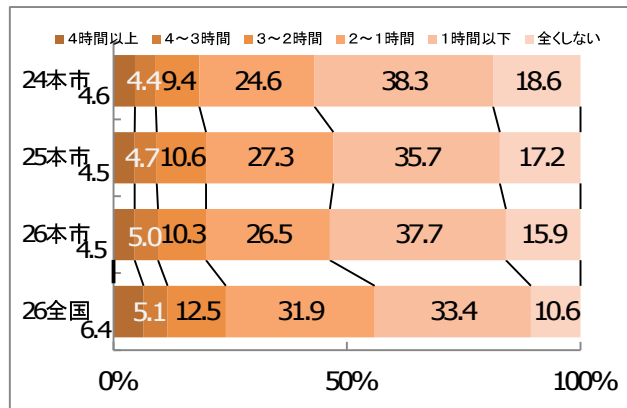
【中学校】 1時間以上 本市 54.8% 全国 67.9%
全くない 本市 14.7% 全国 5.7%



15 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

【小学校】 1時間以上 本市 46.3% 全国 55.9%
全くない 本市 15.9% 全国 10.6%

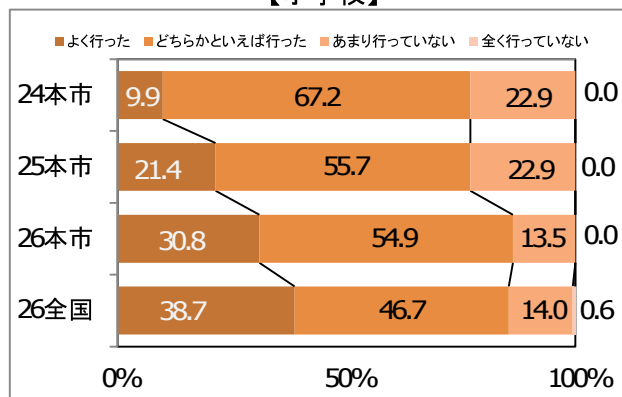
【中学校】 1時間以上 本市 51.9% 全国 67.4%
全くない 本市 22.9% 全国 11.3%



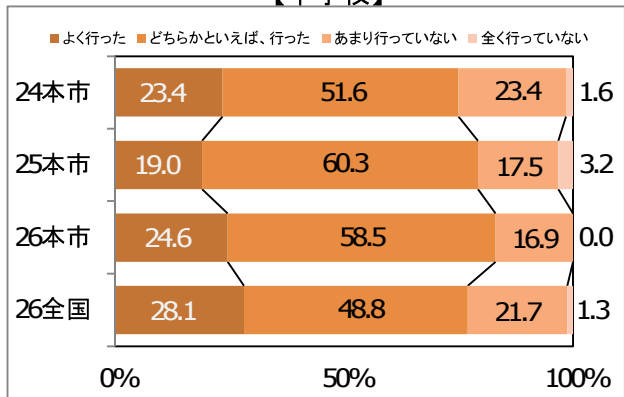
学校質問紙調査結果より

小学校	85	国語の指導として、(調査対象学年の児童に対して、前年度までに、)家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか 【平成26年度については、国語/算数(数学)共通】
中学校	83	

【小学校】



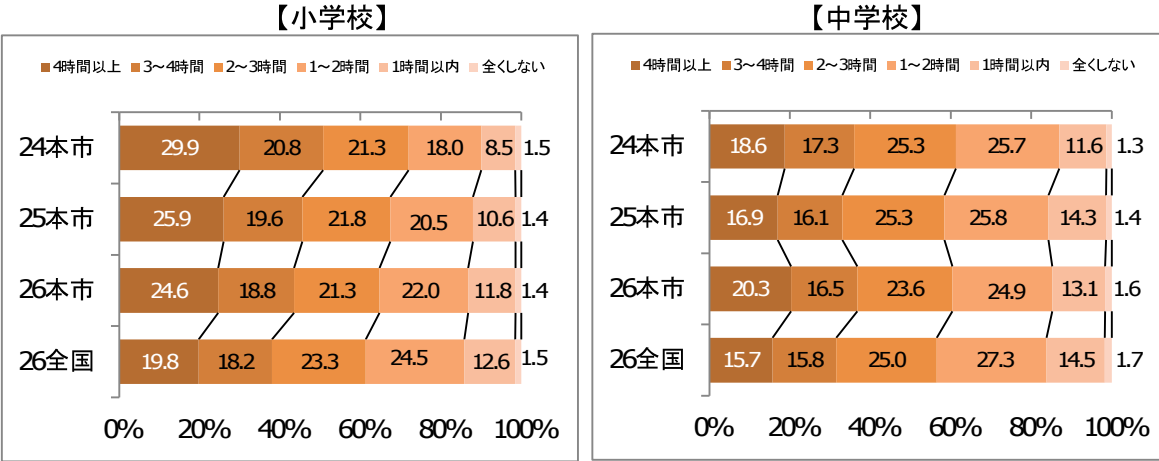
【中学校】



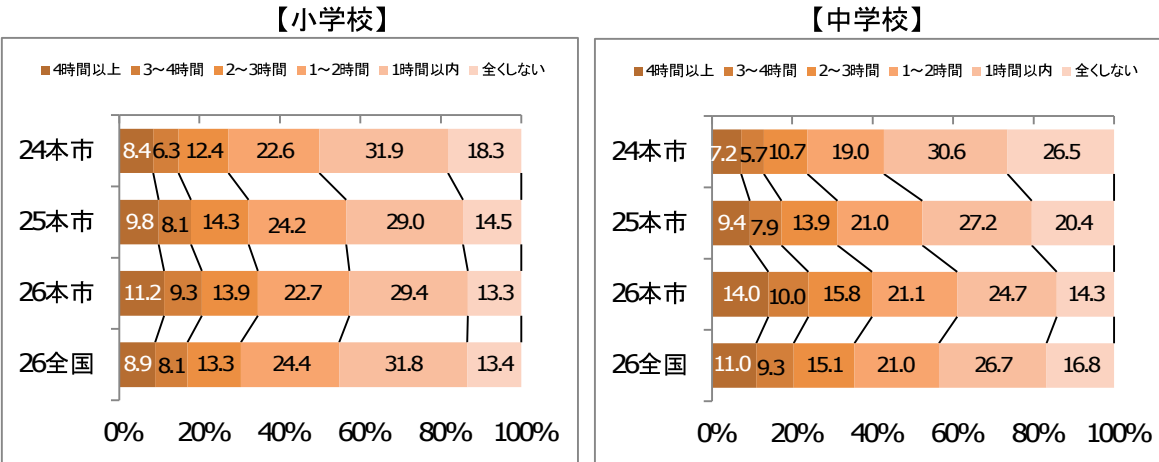
メディア接触時間

児童生徒質問紙調査結果より

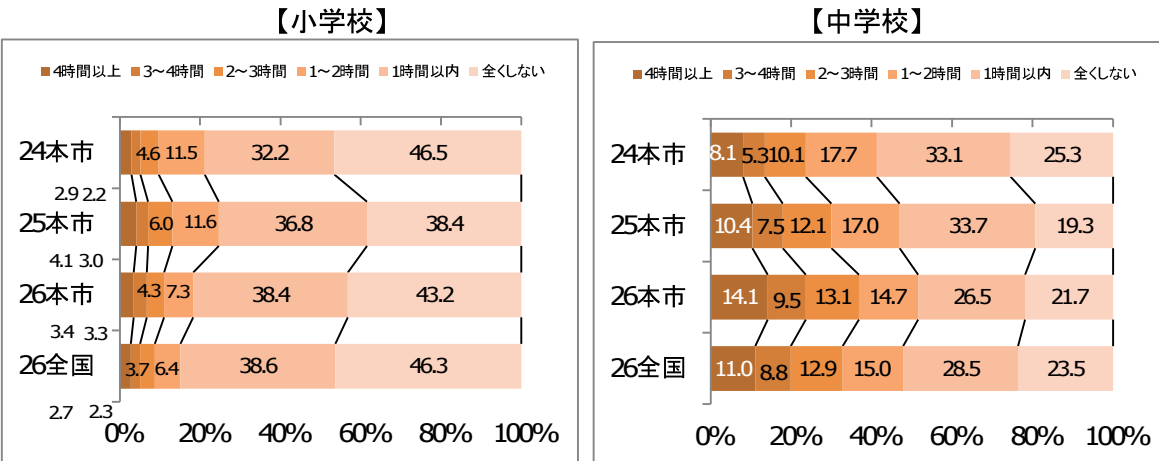
11 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(テレビゲーム除く)



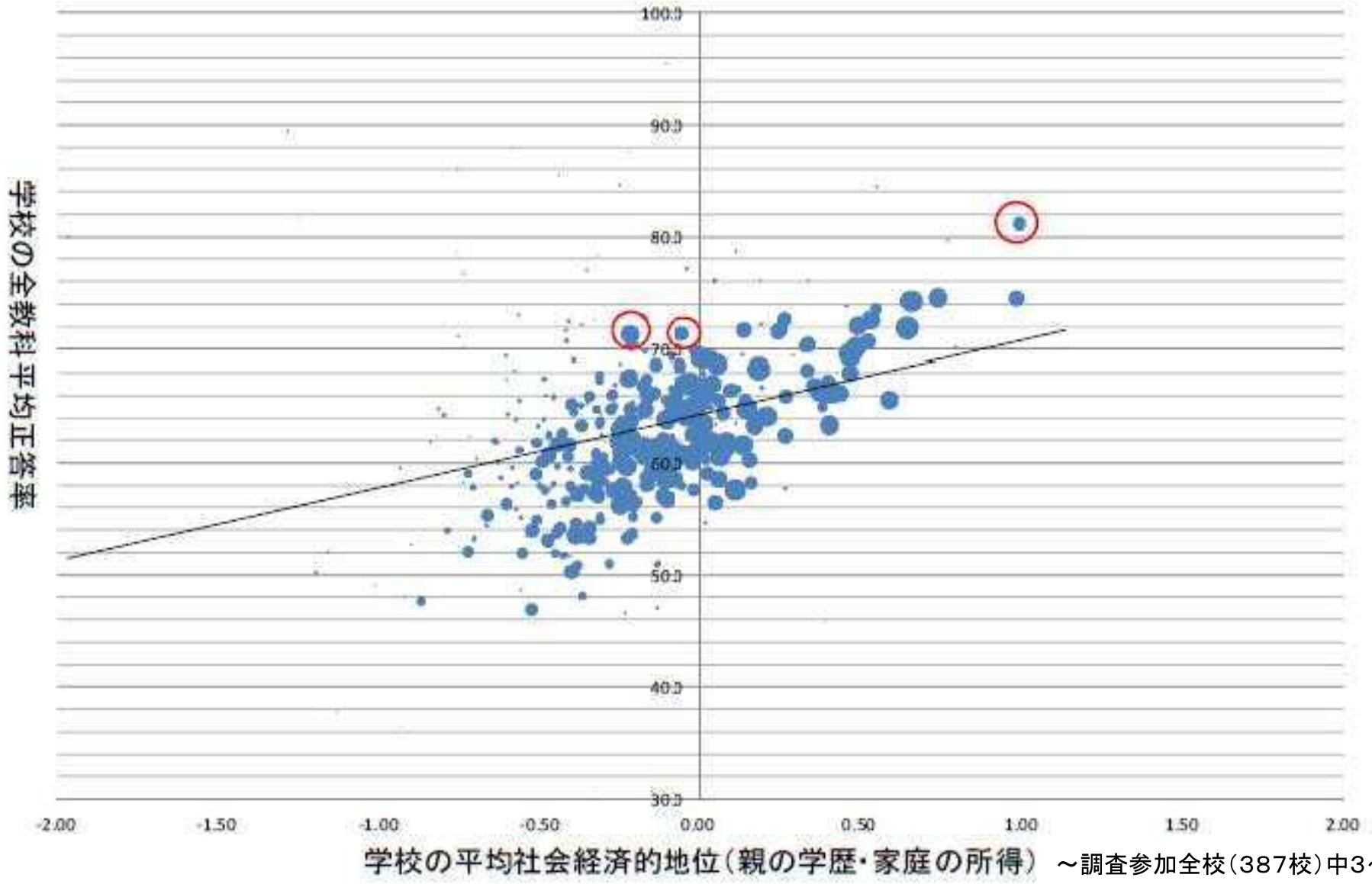
12 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム含む)をしますか



13 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、インターネット(携帯電話を使ったインターネット含む)をしますか【H25:本市抽出調査 H26:通話・メール含む】



学校の学力と社会経済的背景の関係 (文部科学省委託研究より)



学力向上に成果を上げている学校の取組

- 放課後を活用した補充的な学習サポート
- 各種学力調査の積極的な活用
- 基礎・基本の定着と少人数指導
- 言語活動の充実等
- 家庭学習の充実
- 小中連携の取組の推進
- 管理職のリーダーシップと同僚性の構築、実践的な教員研修の重視

出典：文部科学省委託研究「平成25年度全国学力・学習状況調査(きめ細かい調査)の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」(国立大学法人お茶の水女子大学)
学校全体の学力の向上に効果を上げている学校では、以下の共通の特徴が見られた。(訪問調査の結果)

H26年度 学力向上に向けたピックアップ校一覧(小規模校10人以下は除く)

【全国平均正答率との差の推移を基準としたもの】〈小学校〉

連続して改善傾向が見られる						
		26年度-25年度		25年度-24年度		特記事項
1	A小学校	36.0	◎	34.9	◎	毎朝の20分間読書の実施。給食準備時間に、未定着の児童を対象に算数道場を実施。全職員でほめることを心がけ、自尊感情を高めている。
2	B小学校	20.7	◎	14.7	○	全校一斉のパワーアップタイム(基礎・基本の徹底)の実施。家庭学習習慣の啓発を保護者や地域に徹底して行う。⇒家庭学習時間が急増
3	C小学校	22.1	◎	8.2		全校で朝自習・学習規律の徹底。4年のときに40人の学級を担当が徹底指導、5・6年で2クラス、継続指導が徹底。担任の力量あり。
4	D小学校	16.9	○	7.8		宿題の徹底化(2年かけて、宿題をしてこない3分の1児童を0にした。保護者からのクレームにも毅然とした態度で対応)⇒家庭学習時間が急増
昨年度大きく上がりその傾向が続いている						
		26年度-25年度		25年度-24年度		特記事項
1	E小学校	13.0	○	24.1	◎	読みの指導の徹底。給食準備時間に算数道場の実施。
2	F小学校	6.3		21.8	◎	課題がある子は、担任が日常的に関わり指導を徹底。月・火は職員が放課後指導を継続的に実施。水・木は、ひまわり教室を実施。算数科の研究校として全職員で取り組み、特に一時間での基礎・基本の定着の徹底。
今年度大きく改善傾向が見られる						
		26年度-25年度		25年度-24年度		特記事項
1	G小学校	48.7	◎	-41.4	▲	まず校長のやる気、学テに関わる職員や子どもへの声かけ、励まし(自信をもたせる)。給食の合間など隙間の時間を活用。日常的に学習規律の徹底を全校で。
2	H小学校	39.9	◎	-2.1		全学年で宿題の徹底的チェック。学ぶことの価値や意義を日常的に徹底して指導⇒勉強が大切だと思う児童が増加。
3	I小学校	38.4	◎	-23.5	▲	昨年度の6年生と比較すると、本年度は落ち着いている。4年生のときには課題があったが、その後の担任の力で学習規律も徹底。宿題のチェックを学年で徹底して実施。
4	J小学校	35.2	◎	-17.6	△	朝自習の充実(書くことの徹底指導・算数学習では、管理職等が入室し、評価補助)

※ 全国平均正答率との差を年度ごとに計算し、その値を前年度と比較した数値

※ 全国学テの記号は、前年度調査と比べ、20P以上の改善は◎ 10～19.9P以上の改善は○、
20P以上の悪化は▲ 10～19.9P以上の悪化は△で表示。

H26年度 学力向上に向けたピックアップ校一覧

【全国平均正答率との差の推移を基準としたもの】〈中学校〉

連続して改善傾向が見られる						
		26年度-25年度	25年度-24年度	特記事項		
1	A中学校	16.7	○	3.8	入学時から成績がよかった学年。学習規律の徹底、特にチャイムと同時に学習を開始。宿題や課題忘れについては、残しても必ずさせる。全教科を通して書く活動を取り入れることを徹底。2年生以下には課題もあり、危機感をもって指導。	
2	B中学校	13.7	○	10.7	○	自主学习ノートの継続的な実施。2年生時の国語科教員の指導がよかったと思われる。(基礎・基本の徹底)
昨年度大きく上がりその傾向が続いている						
		26年度-25年度	25年度-24年度	特記事項		
1	C中学校	4.1		35.1	◎	学期に2回、経験4年未満の職員の授業研修を実施し、指導力の向上を図る。計算、漢字、首都名・県庁名コンクールを実施し、全学年満点になるまでチャレンジさせる。空き時間に読書活動をする習慣の定着。休み時間には、音楽を流し、落ち着いた雰囲気を作る。
今年度大きく改善傾向が見られる						
		26年度-25年度	25年度-24年度	特記事項		
1	D中学校	24.4	◎	-3.7	帰りに、基礎学力定着の取組。週末課題の実施。(確認テストも実施)。寺子屋「○○」(放課後学習支援)の実施。	
2	E中学校	24.2	◎	-6.7	宿題などの提出物を徹底して提出させ、評価をした上で、毎日返却する。数学の時間の初めの5分間に本時に関係のある学習内容5問を実施。	

※ 全国平均正答率との差を年度ごとに計算し、その値を前年度と比較した数値

※ 全国学テの記号は、前年度調査と比べ、20P以上の改善は◎ 10～19.9P以上の改善は○、
20P以上の悪化は▲ 10～19.9P以上の悪化は△で表示。

学力向上のための今後の取組

平成26年10月 教育委員会指導部

◎ 学力向上に向けての基本的な考え方

本市の子どもたちの学力向上に向けて、本市児童生徒の学力実態に応じた施策と学校における指導の充実を図っていく必要がある。

そのため、学力調査の結果の分析によって課題を明らかにし、それに即した適切な対策を立て、**徹底して**授業改善や学習習慣・生活習慣の改善に取り組むことが大切である。

1. 放課後を活用した補足的な学習サポート
2. 全国学力・学習状況調査に準拠した、本市独自の学力・学習状況調査
3. 授業改善等、学校での指導の充実〈全校が共通して行うこと〉
 - ① 全教科の授業の中で、次のことを必ず徹底
 - ア 学習規律を徹底させる。
 - イ 板書には必ず、「めあて」、「まとめ」または「振り返り」を書く。
 - ウ 発問の工夫をする。
 - エ 話し合い活動を一時間の授業の中に、一回は取り入れる。
 - オ まとめ（振り返り）の時間を5分確保する。
 - ② 家庭学習の徹底
 - ア 学校として共通理解を図り、必ず宿題を課す。
 - イ 調べたり、文章を書いたりする宿題を与える機会を多くする。
 - ウ 家庭での学習方法を具体例を挙げながら教える。
 - エ 宿題、家庭学習は必ず点検し評価する。
 - オ 「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
 - ③ 授業以外での学力向上に向けた取組の徹底
 - ア 朝自習や特設時間での基礎基本の徹底
 - イ 定期考査、小テストにおいて既習事項の活用力を問う問題を作成する。
 - ウ 特に中学校では、上記について校内で教科を超えて授業研究を行う。
 - エ 各学校での全国学力・学習状況調査結果の公表（学校HP・学校便り）
4. 小中一貫・連携教育の更なる推進
5. スクールソーシャルワーカーや就学相談の体制の充実
6. 若手教員を中心とした研修の充実

★ 学力向上学校訪問

上記の取組（特に3. 4.）を徹底させるために本年度も全小中学校を訪問し、指導する。
（10月下旬～12月上旬）